



第73回九州歯科医学大会 in 熊本

と県歯科医師会館からオンライン開催となった。

開会式では、熊本地震からの復興状況を記録したビデオが上映され支援してくださった方々への感謝の意が伝えられた。開会の辞の後、伊藤明彦大会長による式辞、九州地区連合歯科医師会大山茂会長の挨拶が行われ、熊本県蒲島郁夫知事とくまモン、熊本市大西一史市長の祝辞動画が配信された。基調講演一は、日本歯科医師会堀憲郎会長による「歯科医療と口腔健康管理の過去・現在・未来」という演題で講演された。歯科界が取り組んできた

う蝕予防や八〇二〇運動の成果を踏まえ口腔の健康と全身の健康の関係から歯科医療の充実が口腔機能管理の充実による健康寿命の延伸に貢献できていることを述べられた。そしてこれからの歯科界は二十年後を見据えた歯科医療と口腔健康管理の役割に向けての目指すべき五つの課題を示された。

基調講演二は、日本歯科大学菊谷教授による「認知症と歯科」認知症になる前にすること、認知症になったらすること」という演題で講演された。認知症の方が抱える歯科治療の問題点を挙げ、それにどう対応していけばいいのかと解説された。歯科医院は、初期の認知症を発見する重要な医療機関であるとし歯科受診を途絶えさせないことが重要な事だと述べられた。

特別講演は、ジャーナリストの櫻井よしこ氏による「この国の行方ー日本の在るべき姿ー」という演題にて講演された。冒頭ご自身の体験談として新潟中越地震時の避難所で口腔ケアが感染予防に十分効果があり歯科の重要性を実感したと語られ全国の歯科医療従事者に向けて労いと感謝の言葉が伝えられた。その後、日本が置かれている状況などについて六十分間熱く語られた。

全講演が終了後、閉会式にて次回開催の鹿児島県へペナントの授受を執り行い初のオンライン開催となった学会が終了した。

第二十八回熊本医学・生命科学国際シンポジウム開催

熊本大学大学院生命科学研究所
病態生化学講座 教授

山縣 和也

令和三年五月二十七日(木)、二十八日(金)の二日間、熊本大学臨床医学教育研究センター奥窪記念ホールにて、第三十六回熊本医学・生物科学国際シンポジウム「健康長寿延伸への新たな挑戦」を開催しました。本シンポジウムでは、「がん」「神経」「代謝・循環」「老化」という幅広い領域の研究者が一堂に会し、健康長寿に関する最先端の研究成果について活発な議論を行いました。

二十七日に開催されたセッション1では、佐谷秀行先生(慶応義塾大学)、石本崇胤先生(熊本大学)、野田哲生先生(がん研究所)から、がんの分子メカニズムに関する最新の研究成果をご発表頂きました。二日目のセッション2では、岩坪威先生(東京大学)、井上泰輝先生(メイヨークリニック)、田中元雅先生(理化学研究所)から、アルツハイマー病や神経変性疾患についてのご講演を賜りました。セッション3および4では、酒井寿郎先生(東北大)、高倉伸幸先生(大阪大学)、有馬勇一郎先生(熊本大学)から代謝や老化の最先端研究についてご紹介い

ただきました。

また今回は、熊本大学の新進気鋭の若手研究者にポスター発表を行っていただき、シンポジウム実行委員会委員による選考で選ばれた四名に対してベストポスター賞を授与しました。この発表を契機に今後さらに熊本大学における健康長寿研究を推進していただけることを期待しています。

最後になりましたが、本シンポジウム開催にあたり多大なご支援を頂きました肥後医育振興会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

第一回熊本大学大学院生命科学研究部附属健康長寿代謝制御研究センター国際シンポジウム開催

熊本大学大学院生命科学研究所
病態生化学講座 教授

山縣 和也

二〇二二年五月二十七日(木)、二十八日(金)の二日間、熊本大学臨床医学教育研究センター奥窪記念ホールにて、第一回熊本大学大学院生命科学研究所附属健康長寿代謝制御研究センター国際シンポジウム「Challenge from Kumamoto for the Extension of Healthy Aging」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現地参加とオンライン参加